

1. はじめに

1.1. 目的

là の担いする機能を概括した上で、その中でも「文中のある要素に置かれている焦点を明示する」という用法に着目して、ベトナム語の là がもつ機能の一端を明らかにする。また、là の焦点明示機能を利用した A+là+B 文は、ベトナム語の分裂文であることを示す。

1.2. 分裂文に関する先行研究

ベトナム語の分裂文に関する研究は管見の限りほとんどないが、分裂文は多くの言語で観察される。以下に、英語、日本語、中国語の分裂文の特徴についてまとめる。

(表 1)

	文型	特徴
英語 (福地 1985)	It is <焦点> that ~	① It は形式語である ② 常に specificational (指定) の意味を表す 例: It was Mary that John saw.
	What ~ is <焦点>	① Wh 疑問文とその答えを話者が一人で行った文 例: What John saw was Mary.
日本語 (西山 2003)	～のは<焦点>だ	① 「～のは…だ」という形式を有し、かつ対応する動詞文が存在する文 ② 倒置指定文(疑問文とそれにたいする答えを単一文のなかで実現している文)に分類される 例: 花子を殺したのは、あの男だ。
中国語 (Fangqiong and Chaofen 2013)	是 <焦点> 的	① cleft-obj タイプは「的」の言語化が必須であり、cleft-sbj タイプも「的」が言語化された形が一般的 ② 常に specificational (指定) の意味を表す 例: 她 是 昨天 去 上海 的 SG3 COP 昨日 行く 上海 NOM 彼女は昨日上海に行った。

1.3. データの概要

本発表で用いる例文は、先行研究からの例と 2 小説 (Dương Thu Hương, 1988, *Những thiên đường mù* (虚構の楽園) (TĐ と略)、Nguyễn Nhật Ánh, 2010, *Tôi thấy hoa vàng trên cỏ xanh* (草原に黄色い花を見つける) (HV と略)) からの実例を使用する。その他、先行研究からの引用や発表者による作例も適宜使用する。文の容認可否判定は、1989 年生まれホーチミン市出身の女性に依頼した。

2. là が担う機能

以下の(1)で示すように、ベトナム語の là は一般にコピュラとして使われる形式である。

- (1) Kẹo là kẻ thù số một đấy. (TĐ)
飴 敵 1 番 <語気詞>
飴は1番の敵だよ。

加えて、以下の(2)で示すように là は焦点位置を示すマーカーとしても用いられる。

- (2) Cách tôi vài bước chân là cô Vĩ. (TĐ)
離れる私 2、3 歩 足 ヴィさん
私から数歩離れているのはヴィさんだ。

その他、判断内容を導く機能、因果関係を示す接続詞としての機能、因果関係を示す接続詞としての機能といった機能もある。

3. 焦点を明示する là を含む A+là+B 文の特徴

焦点を明示する là を含む A+là+B 文は、通常「命題関数+là+変項」の形をとり、意味的に対応する文が存在する。(2a)は“cô Vĩ” (ヴィさん) に焦点があることを明示した形式であり、意味的には(2b) に対応する。

- (2a) Cách tôi vài bước chân là cô Vĩ. (TĐ)
離れる私 2、3 歩 足 ヴィさん
私から数歩離れているのはヴィさんだ。
- (2b) Cô Vĩ cách tôi vài bước chân.
ヴィさん 離れる私 2、3 歩 足
ヴィさんが私から数歩離れている。

以下の(3a)は“lúc chị cười” (あなたが笑うとき) に焦点があることを明示した形式である。意味的には(3b) に対応する。

- (3a) Tôi thích nhất là lúc chị cười. (HV)
私 好む 一番 時 あなた 笑う
私が一番好きなのはあなたが笑う時だ。
- (3b) Tôi thích nhất lúc chị cười.
私 好む 一番 時 あなた 笑う
私はあなたが笑う時が一番好きだ。

以下の(4a)は、“người ta chơi bóng đá” (人々がサッカーをする) に焦点があることを明示した形式であり、意味的には(4b)に対応する。このように、節も là によって焦点が置かれていることを明示することができる。

- (4a) Trước mặt 2 người là người ta chơi bóng đá.
前 顔 2 人 人々 遊ぶ サッカー
2人の目の前では人々がサッカーをしている。
- (4b) Người ta chơi bóng đá ở trước mặt 2 người.
人々 遊ぶ サッカー ~で 前 顔 2 人
2人の目の前で2人がサッカーをしている。

Chi+A+là+B の文型するとき、焦点位置は là の前の要素になる。là によって文を分断することによって chi (～だけ) のスコープが明確になると考えられる。chi の (～だけ) という限定する語彙的意味により、(5a)の焦

点位置は là の前になる。

(5a) Chi các cô gái là vừa đi vừa chọc ghẹo nhau. (TĐ)
～だけ<複数> 娘 ～しながら行く ～しながら からかう 互いに

娘たちだけが歩きながらふざけあっている。

(5b) Các cô gái vừa đi vừa chọc ghẹo nhau.
<複数> 娘たち ～しながら行く ～しながら からかう 互いに

娘たちが歩きながらふざけあっている。

4. 焦点を明示する là を持つ A+là+B 文の成立条件

(6a)の“Người” (人) を削除した(6b)は、すでに示した(2a)と同じ「動詞句+là+名詞句」という文型になるにもかかわらず、容認度が下がる。

(2a) Cách tôi vài bước chân là cô Vĩ. (TĐ)
離れる私 2、3 歩 足 ヴィさん

私から数歩離れているのはヴィさんだ。

(6a) Người lên tiếng trước tiên là ông phó chủ tịch. (TĐ)
人 上げる声 最初 男 副 主席

最初に声をあげたのは副主席だ。

(6b)? Lên tiếng trước tiên là ông phó chủ tịch.
上げる声 最初 男 副 主席

最初に声をあげたのは、副主席だ。

(6b)は、(6c)のように là の前に新たな要素を加えたり、(6d)のように文に別の要素を続けたりすると、容認度を上げることができる。

(6c) Lên tiếng trước tiên trong hội thảo này là ông phó chủ tịch.
上げる 声 最初 中 シンポジウム この 男 副 主席

このシンポジウムで最初に声をあげたのは副主席だ。

(6d) Lên tiếng trước tiên là ông phó chủ tịch, sau đó là ông chủ tịch.
上げる 声 最初 男 副 主席 後 その 男 主席

最初に声をあげたのは副主席で、その後は主席だ。

là の前の要素に情報を追加してより具体的な事柄を示すように操作するだけでなく、(6d)のように文全体の情報量を増やすことでも容認度が高まる。この2つの操作に共通していることは、話題に上がるものの特定化のプロセスが進んでいるという点である。また、(2a)が容認されることから形式上 là の前の要素は名詞句でなくても良いことがわかる。これらのことから、(6a)の文頭の“Người” (人) の果たす役割は、厳密には名詞化ではなく、話題に上がるものの特定化プロセスの度合いが低い場合に生起する名詞化要素とみなすべきであろう。

5. ベトナム語の分裂文の認定

(表2)で示すように、ベトナム語は孤立語型言語であるため、形式によって通常のコピュラ文と焦点明示機能を持つ là を含む文が区別できない。

(表 2)

コンピュータとしての機能を持つ là を含む文	焦点明示機能を持つ là を含む文 (下線部: 焦点位置)
<p>動詞句+là+名詞句</p> <p>(7) <u>Gả chồng cho</u> ba cô con gái là 与える 夫 ~に 3 娘 <u>ý muốn của ông bà hàng xóm.</u> 願い ~の 夫婦 隣人 3人の娘を結婚させることは近所の夫婦の願いだ。</p>	<p>動詞句+là+名詞句</p> <p>(2a) <u>Cách tôi vài bước chân</u> là 離れる私 2、3 歩 足 <u>cô Vi. (TĐ)</u> ヴィさん 私から数歩離れているのは<u>ヴィさん</u>だ。</p>
<p>名詞句+動詞句+là+名詞句</p> <p>(8) Nó ngày càng lớn lên là やつ 日 さらに 大きい 上がる <u>niềm vui của chúng tôi.</u> CL 楽しい ~の <複数> 私 やつが日毎に大きくなるのは私たちの喜びだ。</p>	<p>名詞句+動詞句+là+名詞句</p> <p>(3a) Tôi thích nhất là <u>lúc chị</u> 私 好む 一番 時 あなた <u>cười. (HV)</u> 笑う 私が一番好きなのは<u>あなたが笑う時</u>だ。</p>
<p>名詞句+là+名詞句+動詞句</p> <p>(9) Ý kiến của bà là nó nên 意見 ~の 彼女 やつ ~すべき <u>đi một mình.</u> 行く一人で 彼女の意見では、やつは一人で行くべきだ。</p>	<p>名詞句+là+名詞句+動詞句</p> <p>(4a) Trước mặt 2 người là <u>người ta chơi</u> 前 顔 2 人 人々 遊ぶ <u>bóng đá.</u> サッカー 2人の目の前では<u>人々がサッカー</u>をしている。</p>
<p>名詞句+là+動詞句</p> <p>(10) Ước muốn của tôi là học y khoa. 望み ~の 私 学ぶ 医学 私の望みは医学を学ぶことだ。</p>	<p>名詞句+là+動詞句</p> <p>(5a) Chỉ <u>các cô gái</u> là vừa đi ~だけ<複数> 娘 ~しながら 行く vừa <u>chọc ghẹo nhau. (TĐ)</u> ~しながら からかう 互いに 娘たちだけが歩きながら<u>ふざけあ</u>っている。</p>
<p>名詞句+là+名詞句</p> <p>(11) Nam là sinh viên năm thứ ba. ナム 学生 年 第 3 ナムは3年生だ。</p>	<p>名詞句+là+名詞句</p> <p>(6a) Người lên tiếng trước tiên là <u>ông</u> 人 上げる声 最初 男 <u>phó chủ tịch. (TĐ)</u> 副 主席 最初に声をあげたのは<u>副主席</u>だ。</p>

※表 2 中の(7)、(10)、(11)は Nguyễn Đình Hoà (1997)より引用。

表 2 で示したとおり、通常のコピュラ文と焦点明示機能を持つ là を含む文を形式のみで区別することができない。つまり、ベトナム語の分裂文を「A+là+B の形を有し、命題関数とそれに当てはまる変項を示す文」と定義すると、指定的な意味を持つと解釈した場合のコピュラ文も含まれてしまう。

焦点明示機能を持つ là を含む文は、命題関数とそれに当てはまる変項を là で繋いだ文であり、意味的に対応する通常の文がある。意味的に対応する通常の文は、変項を埋め込んだ形であると言える。このことを図式化し、là がコンピュータの機能を持つ文についても同様の操作を試みると、以下の表 3 のとおりになる。

(表 3)

(12a) 【焦点明示機能を持つ là を含む文】	文型：Tôi thích nhất là lúc chị cười. (HV) 私 好む 一番 時 あなた 笑う (私が一番好きなのはあなたが笑うときだ。) 意味：[Tôi thích nhất <x>] là [<x>=lúc chị cười] [私は一番<x>が好きだ] [あなたが笑うとき]
(12b) 【(12a)に意味的に対応する通常の間文】	文型：Tôi thích nhất lúc chị cười. 私 好む 一番 時 あなた 笑う (私はあなたが笑うときが一番好きだ。) 意味：[Tôi thích nhất <lúc chị cười>] [私は<あなたが笑うとき>が一番好きだ]
(13a) 【指定的な意味に解釈したコピュラ文】	文型：Nam là giám đốc. (*Nam là là giám đốc. の là が一つ削除される) ナム 社長 (ナムが社長だ。) 意味：[<x>=Nam] là [<x> là giám đốc] [ナム] [<x>が社長だ]
(13b) 【(13a)に意味的に対応する通常の間文】	文型：Nam là giám đốc. ナム 社長 (ナムは社長だ。) 意味：[<Nam> là giám đốc] [<ナム>は社長だ]

表 3 において(12a)と(12b)は異なる文型を取るが、(13a)と(13b)は同じ文型になってしまい、là が焦点明示機能を担っているかどうか文型からは判断できない。すなわち、(12a)と(13a)の là は本質的に異なっている。このような là を明確に区別するため、前者をベトナム語の分裂文を構成する要素であることを提案し、ベトナム語の分裂文を「命題関数+là+変項（及び、chi+変項+命題関数）の形を取るという解釈のみが許される文」と定義する。

5.1. ベトナム語における分裂文の位置付け

là によって文を分断することで、句と文の区別が明確になる場合がある。

(14a) Đồ ăn thiu là do ma vọc. (HV)
食べ物 腐る ~によって おばけ いじる
食べ物が腐ったのはおばけがいじったからだ。

(14b) Đồ ăn thiu do ma vọc.
食べ物 腐る ~によって おばけ いじる
おばけがいじって腐った食べ物（だ。）/おばけがいじって食べ物が腐った。

(14a)は文としての解釈しか許さないが、(14b)は句としての解釈と文としての解釈の両方が可能である。(15)は(14b)が名詞句として機能している例である。分裂文はベトナム語において、情報伝達上重要な役割を担っていると言える。

(15) Cái này là đồ ăn thiu do ma vọc.
CL これ 食べ物 腐る ~によって おばけ いじる
これはおばけがいじって腐った食べ物だ。

6. まとめ

ベトナム語のコピュラとして一般的に用いられる là は、焦点を明示するマーカーとしても用いられる。コピュラとしての機能を持つ là と焦点明示機能を持つ là は本質的に異なるものであり、「命題関数+là+変項

（及び、chi+変項+命題関数）の形を取るという解釈のみが許される文」をベトナム語の分裂文と定義して、焦点明示機能を持つ là を含む文をベトナム語の分裂文とする。

ベトナム語の分裂文の成立可否には、話題に上がるものの特定化のプロセスの進行度が関わってくる。là の前の要素の事物性が低い場合は容認度が下がり、là の前の要素を形式上名詞化させることで容認度が高まる。形式上 là の前の要素を名詞化させた分裂文は、ベトナム語における擬似分裂文である。そのほか、là の前の要素を名詞化したり、文全体の情報量を増やしたりして、話題に上がるものの特定化プロセスを進行させることでも容認度が上がる。

ベトナム語の分裂文を構成する要素としての là は、焦点を明示するという機能だけではなく、là によって分断することで文としての解釈のみを許すようにする機能も持つ。このことから、ベトナム語の分裂文は情報伝達上重要な役割を担っていると言える。

本発表中の略号

CL：類別詞 COP：コピュラ NOM：名詞化/名詞化接辞 SG3：三人称単数

主な参考文献

<日本語文献>

西山佑司 (2003) 『日本語名詞句の意味論と語用論：指示的名詞句と非指示的名詞句』 ひつじ書房

福地肇 (1985) 『談話の構造』 大修館書店

レ・ホアン (2003) 「孤立語型言語統語論構築への新しい試み—ベトナム語・日本語対照研究の立場から—」
博士論文 大阪外国語大学

<ベトナム語文献>

Cao Xuân Hạo (2006) *Sơ thảo ngữ pháp chức năng*, Nhà xuất bản Giáo dục

<英語文献>

Fangqiong Zhan and Chaofen Sun (2013) “A Copula Analysis of shì in the Chinese Cleft Construction” *Language and Linguistics*, vol.14, pp.755-789, Institute of Linguistics at Academia Sinica

Jespersen, Otto (1949) *A Modern English Grammar Vol.7 Syntax*, George Allen & Unwin LTD.

Nguyễn Đình Hoà (1997) *Vietnamese: Tiếng Việt không son phấn*, John Benjamins Publishing company

Thompson, L. C. (1984) “A Vietnamese Grammar”, *The Mon-Khmer Studies Journal*, vol. 13-14, pp.1-367